



犬山のまちづくり

「市民活動」と「地域活動」を考える ワークショップ

第3回目となるワークショップは、8月21日（土）に行いました。参加者は10名、オンライン環境がない方向けのサテライト会場には6名が参加しました。

「持続可能なまち」を考えた第1回、「20年後の市民活動、地域活動」を想像した第2回に続いて、第3回は、それらを踏まえた活動支援のしくみについて考えました。

まずは、現在の市の支援について、「これまで」と「これから」を振り返り、現状を確認した後、こうなったら！と思う支援のしくみについて、グループに分かれ議論を行いました。

行政の支援について議論をスタートしましたが、「公の支援はスピード感、満足度が下がってしまう。みんなの共感を集めて、自分たちで活動した方がいい！」「地域の考え方を理解し、長期の視点で関わってくれるコーディネーターが市民にいい！」など、市民活動、地域活動の実践者ならではの活動的な議論となり、最後に一人づつ「私が一番重要だと思う支援」を発表し、感想を共有しました。

NEWS LETTER かわらばん

Vol.3

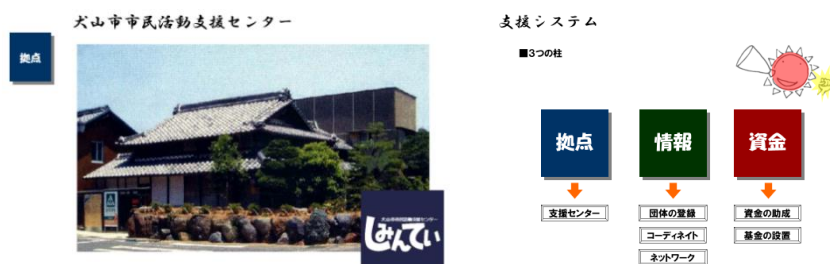
8月21日（土）オンライン（Zoom ミーティング）

【第3回のテーマ】 こうなったら！ 支援のしくみ

- 1 はじめに
あいさつ & 趣旨説明
- 2 導入
現状、犬山の活動支援は？

おしながき

1. はじめに
2. 導入
3. グループごとにディスカッション
4. 全体共有 & 全体トーク
5. まとめ



▲市民活動支援センター（通称：しみんてい）を中心に展開してきた「拠点、情報、資金」の三つの支援は、現在協働プラザに引き継がれています！

協働への取り組み（地域拠点）



地域の課題解決モデル事業



▲各地域に拠点が整備され、地域の課題に住民自らが取り組む支援として、「地域の課題解決モデル事業」が展開されています！

3

グループごとにディスカッション

前回の議論や、これまで、現状を踏まえ、支援のしくみを考えてみよう！

A Group



近年、高齢者とのつながり、世代間交流の場が無くなってきているが、とても大事な事。世代間交流にあたって、**地域で一人一人に役割を与え、活躍してもらうことが重要**で、その前提として「人と人との関係」があり、まず自分が動いて、人が付いてくるという姿勢が大事になる。

地域の中に入り、そこで活躍する人をコーディネートする人や仕組みが大事だが、専門的な技術より、**長期の視点に立ち、地域の考え方を理解して動ける人**でないと上手くいかない。どんなに良い仕組みでも、最後は、人として合う・合わないが一番重要だと思う。

B Group



避難場所として、小規模でもいいので、身近に皆が集まれる場所があるといい。また、子育て支援をする中で、活動する場所や情報をどのようにして調べるのかなど、学べる場所が欲しい。

キーワードは「子ども」であり、子どもをいかに社会の中につなげていか。子ども・親・働く世代・高齢者を**上手くつなぐ場所や活動**があると、子どもたちが自然と社会を見て学んでいく。

資金的な面で、市の助成金に頼ると公平性などを求められる。**自分のやりたいことに「共感」してくれる人から援助を受ける(クラウドファンディングなど)形にすれば**、もっと伸び伸びと活動できると思う。

協働プラザが、もっと人と人をつなげたり、情報を渡せる場所になれば良い。

サテライト Group



地域に住んでる人(コミュニティ)と市民活動をしている人とのつながりが薄いので、**話し合える場所**があると良い。コミュニティや地域の団体は、世話役が男性ばかりであり、高齢化により行動力や、新しいアイデアが少なくなっている。**行政や青年会議所、協働プラザの職員が地域の集まりに参加することにより**、新しい広がりが生まれるかもしれない。

コミュニティや協議体の全体像や関係性を知りたい。そうすることで、地域ごとのつながりや、地域外への広がりが生まれていくのではないかな。

4

全体共有

講師(タケゾー)からのコメント



- ・どんないいしくみがあっても、その人が嫌な人だったら、誰も付いていかない。会社と違い、地域では人とのつながりや人間性など、**属人性を除くのは難しい**よね。
- ・助成金を当てにせず活動した方が自由にできるし、もっと高い次元にいけるという話には、思わず自分も参加してしまいました。
- ・公的なサービスになると美しいけど、スピードが遅くなり、満足感が下がる場合がある。それであれば、**できる人ができる事をやる方が早い。「共感でつながる」広がりの方が早いし、効果も高い**と思います。

・市の仕組みに文句を言うくらいなら、自分達でテーマを掲げて、そこに共感する人達と手を組んで進めた方がお金も集まりやすいし、動きも早い。それがこれから求められることだと思います。

・色んな団体を教科書的に連携させようとするのは難しい。まず、それぞれがお得感(メリット)を感じていません。全員が同じ荷物を背負ってやろうという時代ではないので、やれる人がやればいいし、高いお金を払える人が払えばいい。**それを許容できるのが、多様性だと思います。**

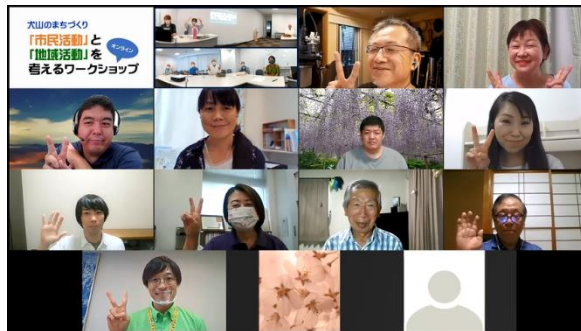
・これから先は、平等ではないことも含め、共感でつながり、お金を集め、互いに助け合った方が、豊かで犬山らしいと思います。各地域が同じになるのではなく、**それぞれの魅力を生かしつつ、独自の発展をしていけば良い**と思います。

・オーガニックなことをどう支援し、つないでいくのが問われていると思います。

5

まとめ

私が一番重要だと思う支援、感想など



- 今の自分の現在地を知るためにも、外に出かけて学んでいきたい。
- コミュニティや協議体には、それぞれの強みがある。それを生かすコーディネーターが、行政ではなく市民にいればいいと感じた。
- 好きなことを好きな人がやればよいが、取りこぼしも多くなる。何か上手く連携できる仕組みがあればいい。フレキシブルに地域にコミットすることが大事だと思う。
- “支援”の前に皆と会って、ゆる〜く話せる場が必要。
- これからの考えると、若い世代との交流が必要。周りの共感を得て、皆がリーダーとなって活動できれば。
- 自分の抱える課題解決につながりそうな出会いがあったので、今後進めていきたい。
- お金は自分達で作る。 etc…

発行
&
連絡先

犬山市役所 地域協働課 (担当：島内・田原)

TEL 0568-44-0349 (直通)

Mail 010410@city.inuyama.lg.jp